

令和7年度 第2回磐田市健康づくり推進協議会次第

令和8年3月11日（水）午後2時00分～

磐田市総合健康福社会館（iプラザ）

2階 ふれあい交流室 1

1. 開 会
2. 新任委員紹介
3. 健康福祉部長挨拶
4. 会長挨拶
5. 議事・協議
 - (1) 令和7年度の実施報告と令和8年度の取組について
 - (2) 意見交換
6. その他 連絡事項
7. 閉 会

【資料1】 健幸いわた21指標の経年変化

◇計画全体目標◇ 健康寿命の延伸と健康格差の縮小

●健康寿命（※平均自立期間）※要介護2以上になるまでの期間



出典：KDBシステム「地域の全体像の把握」

【重点取組1】 糖尿病の発症予防・重症化予防の取組

●特定健診受診率

(参考) 特定保健指導実施率

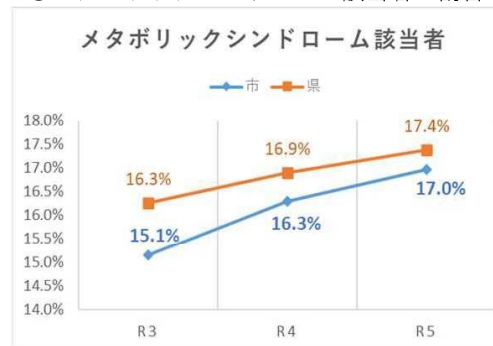


出典：特定健診等実績報告



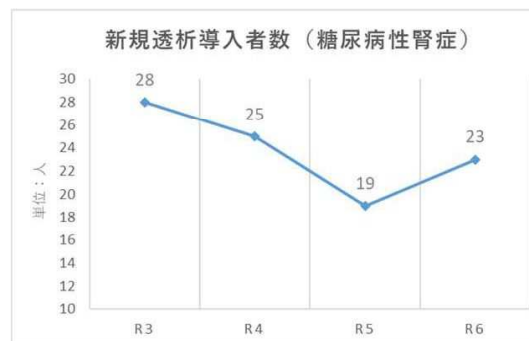
●メタボリックシンドローム該当者の割合

●空腹時血糖126mg/dl以上
またはHbA1c6.5%以上の者の割合



出典：特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書

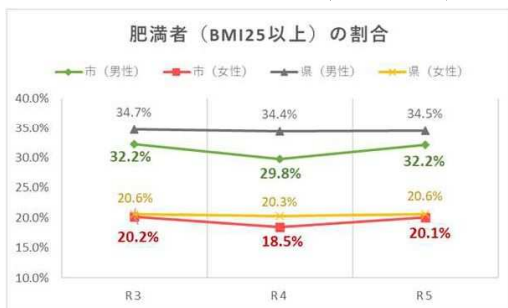
●新規透析患者導入者数（糖尿病性腎症）



出典：
身体障害者手帳（腎機能障害）
申請時の医師診断書

【重点取組2】生活習慣の改善に向けた取組

●40～74歳の肥満者の割合（BMI25以上）



出典：特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書

●高血圧Ⅰ度（140/90mmHg）以上の者の割合

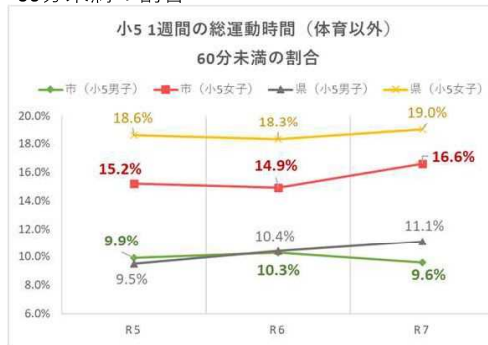


出典：特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書

●LDLコレステロール160mg/dl以上の者の割合

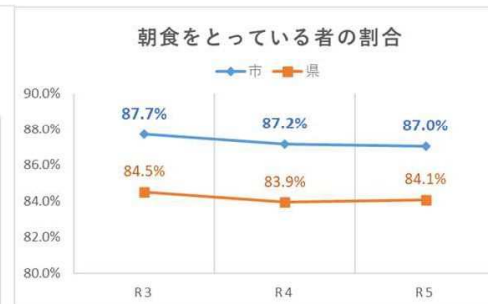


●小学5年生の1週間の総運動時間（体育以外）60分未満の割合



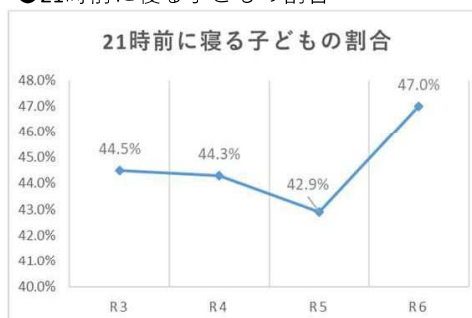
出典：全国体力・運動能力・運動習慣等調査

●朝食をとっている者の割合



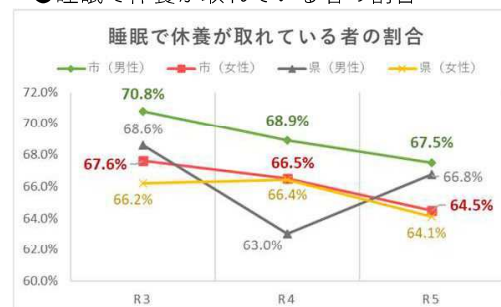
出典：特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書

●21時前に寝る子どもの割合



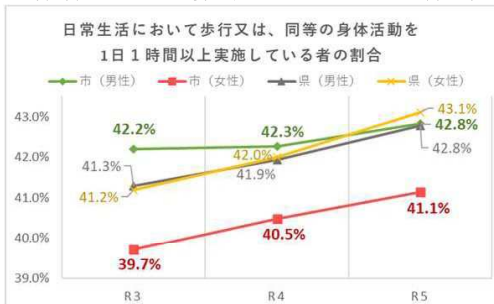
出典：3歳児健診問診

●睡眠で休養がとれている者の割合



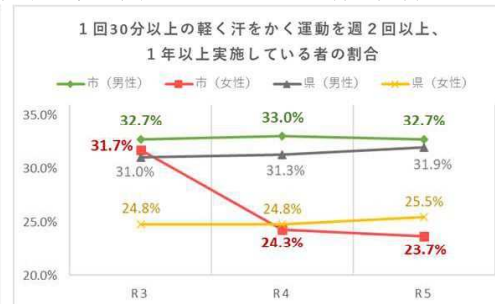
出典：特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書

●日常生活において歩行又は、同等の身体活動を1日1時間以上実施している者の割合



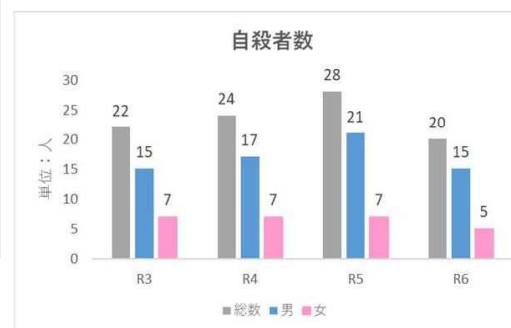
出典：特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書

●1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施している者の割合



【重点以外の取り組み】

●自殺者の人数



出典：自殺統計（地域における自殺の基礎資料 内閣府）
※年度ではなく、1月～12月で計上

【資料2】令和7年度の主な取組と課題・令和8年度の計画

	令和7年度の取組 (R8年2月末時点)	課題	令和8年度の計画(案)
【重点取組1】 糖尿病の発症予防 重症化予防の取組	<p>●特定健診 受診勧奨の強化と受診しやすい環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 受診勧奨事業の実施(委託) AI分析を用いて対象者の受診行動を予測し、対象者ごとに響きやすい内容とメッセージのはがきを7種類作成・送付した。 また、40歳・50歳向けにも別途勧奨はがきを作成・送付した。 ◆R7.8月発送：12,554人(計8種類)→以降2回再勧奨はがきを送付 ・年度末年齢40歳・50歳の方の特定健診費用無料化の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・40代、50代の若年層の受診率が低い。 ・データヘルス計画の目標値に届いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末年齢40歳、50歳の健診費用無料化の継続 ・県の実施する特定健診の受診勧奨事業(R8～10)に参加
	<p>●特定保健指導実施率の維持と成果のある保健指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導の一部を健診機関や杏林堂に委託 特定保健指導実施率：78.1%(R6年度) ・保健指導従事者の資質向上のため、勉強会等を実施 事例検討会(毎月1回)、磐田病院糖尿病認定看護師を講師とした研修1回 県主催の保健指導技術向上研修への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・初回指導後、訪問不在や連絡が取れない対象者への対応 ・保健指導従事者の技術向上 ・保健指導や受診が必要になる前の早期の介入が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・LINEを活用した特定保健指導の実施 ・事例検討会や外部講師による研修会の実施、県主催の技術向上研修への参加 ○体ととのAプログラム：健康器具を使った測定と、生活習慣病予防のための運動や栄養の健康教育及び相談を行う。
	<p>●医療機関未受診者や治療中断者への適切な介入及び重症化予防に向けた取組の推進</p> <p>①HbA1c6.5以上で医療機関未受診者への受診勧奨及び保健指導を実施(一部委託)</p> <p>対象者の保健指導実施率：95.3% ※R6年度</p> <p>②特定健診未受診者で糖尿病治療中断者へ受診勧奨通知を送付し、未受診者の状況確認</p> <p>対象者の受診勧奨実施率：100% 対象者の把握率73%(R8.2月現在)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関未受診者と治療中断者の医療機関受診率の向上 ・受診が必要になる前の早期の介入が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の受診行動につながる効果的な勧奨資材の作成(再掲)体ととのAプログラム
	<p>●保健・医療の連携推進 糖尿病性腎症重症化予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病通院中でHbA1c6.5%以上かつ75歳未満の者へ保健指導を実施 2件(R7年度) ・医療機関との連携体制のあり方について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関との連携体制の構築 ・保健指導従事者の技術の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関からの意見も伺いながら事業を実施していく。 ・医療機関から依頼のあったケースについて保健師・栄養士で事例検討してから指導を実施
【重点取組2】 生活習慣の改善 に向けた取組	<p>●健康に配慮した食事のとり方の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの保健室等市内各所でベジチェック測定会を実施 R7年度ベジチェック測定回数：57回・測定者数：2,492人(R8.2.10時点) (実施場所：子育て支援センター、静岡産業大学、アピタ磐田店、マックスバリュ、杏林堂、健診会場、母子事業、給食試食会、学校への貸出等) ※学校給食課、学校とも連携してベジチェック測定を実施 ・市内公立高校にて食育講座を実施 回数：16回、実施人数：898人 ・公立園年中児・年長児へ野菜摂取についての啓発 「やさいをおいしくたべよシート」の実施を通じ親にも食事の大切さを考えてもらうきっかけとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代ほど野菜摂取量が少ない。 ・野菜摂取量増加の取組だけでなく、食事バランスの大切さについても普及が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベジチェック測定、高校生へ向けた食育講座の継続 ・大学生への啓発機会の検討 ・年長児を対象にバランスの良い食事についての啓発を追加 ・企業と連携した野菜摂取量増加の取組を検討 ○モアベジ350：企業や飲食店との共創で、野菜摂取を促す取組を実施 ○まち保NEO：より若い世代を含めた市民の健康意識向上につながるよう、市民にとって身近な店舗や地区でのイベント等で開催 ○健幸いわたDAY&WEEK：毎月1日を健幸の日に設定し、健幸へ関心を向け、健康づくりの取組の定着を促す取組。企業との共創でSNSを活用した情報発信や、市内店舗に同時開催を呼び掛けていく。9、10月頃には健幸いわたWEEKを設定し、健康に関する啓発を強化するためのイベント等を開催(再掲)体ととのAプログラム

	<p>●身体活動・運動量の増加の働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツのまち推進課と連携した取組みの実施 スポレクフェスタ・ららぽーと磐田でのウォーキングイベント等で大股歩きについての啓発を実施したほか、市内ウォーキングマップを作成した。 ・乳幼児期の教室や健診における情報提供、啓発 ・いきいき百歳体操の支援 活動開始から10周年を迎える団体に対し、地域の介護予防活動への貢献をたたえ表彰した。 R7年度対象団体：5団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・他課、他分野と連携した取組の推進 ・ウォーキングマップの普及方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツのまち推進課と連携し、ららぽーと磐田でのウォーキングイベントに参加し、普及啓発を実施 ・ウォーキングマップの普及啓発 (再掲) まち保NEO、体ととのAプログラム、健幸いわたDAY&WEEK
重点以外の取組	<p>●自然に健康になれる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7.12月末に健康増進課公式Instagramを開設 お正月に合わせた食事・運動の投稿や静岡産業大学学部長に協力してもらい、健康情報を投稿 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に対し関心が低い人や若者世代に健康情報が届いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産官学が連携し、レシピや運動メニューを考案 ・スポーツのまち推進課、静岡産業大学、企業等と連携し、健康情報の発信を行う (再掲) まち保NEO、モアベジ350、健幸いわたDAY&WEEK
	<p>●健康経営支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請があった企業に対して保健師・栄養士を派遣し、従業員の健康づくりに関する支援を実施 R7年度合計：4企業（相談受けた企業：8企業） 支援介入累計（R7.2末時点）：9企業 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業への健康経営の必要性和メリットの周知が不足 ・共創での支援を加速させていくとともに、健康以外の視点を含めた体制づくりが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内横断的なプロジェクトを立ち上げて、共創の視点で連携を図りつつ、全市的に企業の健康経営を推進する体制づくりを行っていく。
	<p>●こころの健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内2年目職員と希望する職員に向けてゲートキーパー養成研修を実施 ゲートキーパー養成研修参加者：41人（累計777人） ・9月の自殺予防週間に啓発物品を配布（民児協、子育て支援センターなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートキーパー養成研修の対象者や、自殺対策啓発物品の配布先の固定化 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内職員に向けたゲートキーパー養成研修に加え、民生委員への養成研修を実施

○市民への「健幸いわた21」計画周知について
リーフレットの説明・配布状況 合計：3264部（R8.2.6時点）
令和8年度配布予定
まち保NEO、モアベジ350、体ととのA、イベント等

「3つの重点戦略」

誰もが幸せに暮らせる社会の「共創」

健康で自分らしく生きる ～健康寿命県内1位を目指す～

◆ 若者世代も含めた健康へのきっかけづくり

- ◇ 産官学で連携してレシピや運動メニューを開発しSNSなどで発信 **NEW**
- ◇ 企業などと共創で「健幸いわたWEEK」を開催 **NEW**
- ◇ 飲食店などと共創で「モアベジ350」を推進
- ◇ 企業との共創による「まちの保健室NEO」の推進

◆ 生活習慣病予備軍にアプローチ

- ◇ 「体ととのA(え)プログラム」を通じて健診結果A判定への支援 **NEW**

◆ 働き盛り世代の健康づくりをサポート

- ◇ 中小企業を中心とした健康経営を支援する仕組みづくりを庁内プロジェクトで検討 **NEW**

◆ 自分の健康を守る健診受診環境等の充実

- ◇ 後期高齢者健診においても全年齢で集団バス健診を選択できるよう拡充
- ◇ 県と連携した特定健診受診勧奨事業の実施
- ◇ LINEを活用した特定保健指導の実施



第2回 磐田市健康づくり推進協議会 ご報告 【委員の皆様からいただいたご質問への回答】

令和7年度の主な取組と課題・令和8年度の計画・・・資料(2)

「体ととのAプログラム」について

生活習慣病予防のためには、異常の前段階である「予備群」に対し、早期のアプローチが効果的ですが、現在、実施している健康相談は平日の日中開催が中心であり、働き世代が相談しにくい現状です。参加しやすい日程設定(夜間・休日)や、個々の健診結果に基づいた効果的な支援を行っていく事業が必要であると考えています。対象については、令和7年度に健康診断または人間ドックを受診し、BMI・腹囲、血圧、血糖値、脂質の中で要観察項目があり、血圧、血糖、脂質の服薬治療をしていない、64歳以下の市民としています。健康器具を使った測定と、生活習慣病予防のための運動や栄養の健康教育及び相談を行う予定です。

「モアベジ350」について

健康リスクを下げるために厚生労働省が1日に350g以上の野菜摂取を推奨していますが、多くの世代で目標に届いていません。今までもベジチェックを活用して野菜摂取の大切さを伝えていますが、若年層の野菜摂取量が少ない傾向が分かったため、若年層が集まると思われる場所に赴き、健康へのきっかけづくりとして野菜摂取の大切さをPRしていきます。

また、企業(ヤタロー/静岡産業大学内)との共創による取組で、静岡産業大学、磐田東高校、市内企業の食堂へ働きかけを考えています。学食メニューにシールを貼って「おススメ」であることを見える化し、1日に350g以上の野菜を食べることが望ましいことをPRしていきます。

「まち保NEO」について

現在、交流センターで行うまちの保健室の利用者の半数以上は65歳以上が占めており、利用者の固定化、高齢化が課題です。また、子育て世代や高齢者も働く人が増え、平日昼間の開催では、参加できる人が限られること、参加者は地元の交流センターよりも実施する内容で参加場所を選択していることから、交流センターでの固定した開催は廃止します。令和8年度は、働き世代を含めた、幅広い年齢層へのアプローチを強化していくために、地区開催のふれあいまつりやスーパー、ドラッグストア等での実施を考えています。

【委員の皆様からいただいたご意見・ご感想】

11月13日(木)に、磐田市立総合病院・山崎病院長の「病院長による地域医療セミナー」を聴講しました。病院長には、磐田市の糖尿病の予備群が国・県より多いとの認識はありませんでした。病院との密な連携を望みます。

健幸いわた21ではSDGs(持続的な開発目標)の6つのゴールが掲げられていますが、磐田市ではウェルビーイング(良い状態・満たされた状態)の考えのもとに、市民の幸福度を市の施策と関連付ける作業を進めていると聞きました。ウェルビーイングの状態は、身体的・精神的・社会的にどうであるかを確認することだそうです。まずは健康であることが問われます。健康増進課の取組に期待するところです。